糖定量[髄液]	119000
	担当部署
L-glucos	生化

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		特記事項なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→髄液一般検査→
	2	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		髄液糖濃度は生理的条件下では、血糖値の変動と平行して変化すると考えてよい。しかし、髄液ブドウ糖濃度が血液ブドウ糖と平衡に達するには約２時間を要すると考えられている。 したがって、髄液糖を評価する場合、同時血糖(少なくとも 2 時間以内)の測定が必要。 更に、著しく血糖値が変動している患者においては髄液糖値の評価は慎重にされるべきであり、正確な評価が必要である場合には髄液採取前 4 時間は絶食とするのがよい。
検査受付時間		緊急対応(24 時間)

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	特記事項なし
検体採取の特別なタイミング	特記事項なし

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	髄液	３５滅菌管	なし	10	mL
2		-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-

検体搬送条件	室温
検体受入不可基準	1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物

	4)粘性のある検体
保管検体の保存期間	冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部
測定時間	当日中～翌日
生物学的基準範囲	同時採血血糖の 1/2～2/3 日本臨床第 7 版 1　177,2009
臨床判断値	設定なし

基準値				単位	mg/dL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
50	75	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし

パニック値	高値	設定なし
	低値	設定なし
生理的変動要因		特記事項なし
臨床的意義		髄液の蛋白、グルコース、クロールなどを測定することによって、中枢神経系に生じている病的状態を正しく把握するための重要な情報が得られる。特に、蛋白の増加、糖価の低下は、髄液細胞数の増加とともに、中枢神経系の炎症、特に髄膜炎、脳炎の診断および重症度の評価に有用である。 日本臨床第 7 版 1　176,2009